

会 議 要 録

会 議 名		令和 7 年度 第 1 回 小平市青少年問題協議会
日 時		令和 7 年 4 月 2 3 日（水）午後 2 時 0 0 分～午後 3 時 3 0 分
場 所		中央公民館学習室 4
出席者等	委 員	1 4 名（欠席者 3 名）
	事務局	こども家庭部長、子育て支援課長、こども家庭センター長、教育指導担当部長、地域学習支援課長、子育て支援課こども・若者支援担当係長
傍 聴 人		1 名
会議内容	1 開 会 2 委嘱状交付 3 委員自己紹介 4 会長・副会長の選任 5 議 事 (1)小平市青少年問題協議会の概要 (2)（仮称）小平市こども計画策定の基本方針について 6 情報交換・意見交換 7 その他 8 閉 会	
配付資料	資料 1 小平市青少年問題協議会委員名簿 資料 2 令和 7 年度 小平市青少年問題協議会 会議日程 資料 3 地方青少年問題協議会法・小平市青少年問題協議会条例 資料 4 （仮称）小平市こども計画策定の基本方針について 資料 5 （仮称）小平市こども計画の位置付けについて 資料 6 こども基本法概要 資料 7 こども大綱概要 資料 8 こども未来アクション 2024 から抜粋資料 資料 9 こども・若者の意識・実態調査報告書 資料 10 こども・若者の意識・実態調査報告書【概要版】 1. 小平市子ども・若者計画 2. 第三期子ども・子育て支援事業計画 3. 子育てガイド 4. 若者応援ガイドブック 5. 広報誌「ひらく」5 6 号 6. 小平市ティーンズ相談室「ユッカ」パンフレット	

○ 会議内容等についての意見・質疑応答

5 議 事

(1) 小平市青少年問題協議会の概要

事務局	<p>本日は任期初回の会議であるので、本協議会の概略を説明する。</p> <p>資料 3 の 1 ページ、青少年問題協議会は、「地方青少年問題協議会法」に根拠を持つ機関で、第 1 条に、「市町村に、附属機関として」「市町村青少年問題協</p>
-----	---

	<p>議会を置くことができる」とされている。この規定をもとに、小平市青少年問題協議会を、昭和36年に条例で設置した。協議会の所掌事務は、第2条に規定されている。3ページ目は市の条例である。協議会の組織については、第2条で定めており、委員数は17人以内とし、市民、青少年に関係する団体を代表する者、学校教育の関係者、学識経験のある者、関係行政機関の職員によって組織することとしている。協議内容として、平成30年度に策定した小平市子ども・若者計画の推進状況や、令和7年度中に策定する（仮称）小平市子ども計画の計画案についてまた、青少年の健全育成に関する委員相互の意見交換、情報交換を予定している。</p> <p>小平市子ども・若者計画については、青少年育成部門の計画として、平成30年度から令和9年度までの10年間を計画期間としているが、計画を前倒しで見直しすることとしている。この計画に掲げられた子ども・若者に関連する各事業は、市の多くの課にわたって実施しており、これらの各事業の推進状況を、とりまとめ、本協議会へ報告を行う。</p>
委員	議事録は公開されるのか。
事務局	事前に各委員による確認ののち、公開となる。

(2) （仮称）小平市子ども計画策定の基本方針について

事務局	<p>資料4の1計画策定の背景であるが、令和5年4月にこども基本法が施行され、3つの大綱「少子化社会対策大綱」、「子供・若者育成支援推進大綱」、「子供の貧困に関する大綱」が「こども大綱」に一元化され、市町村はこども施策についての計画を定めるよう努めるものとなることによる。続いて資料6のこども基本法の目的であるが、日本国憲法及び児童の権利に関する条約の精神にのっとり、「次世代を担う全てのこどもが、生涯にわたる人格形成の基礎を築き、自立した個人としてひとしく健やかに成長することができ、心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、その権利の擁護が図られ、将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会」を目指し、それに向けて「こども施策を総合的に推進すること」を目的としている。言い換えると、すべてのこどもや若者が将来にわたって幸せな生活ができる社会を実現するための法律である。基本法でいうこどもの定義は、18歳や20歳といった年齢で必要なサポートがとぎれないよう、心と身体の発達の過程にある人をいい、概ね30歳未満を対象としている。</p> <p>こども施策の基本理念は、記載されているとおり、6つの基本理念をもとに推進していくこととされている。</p> <p>資料7のこども大綱概要では、こども大綱では、こども基本法をうけ「こどもまんなか社会」を目指すとしている。「こどもまんなか社会」とはすべてのこども・若者が身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態、ウェルビーイングで生活を送ることができる社会を指している。具体的には資料のとおりである。</p> <p>小平市ではこれまで「小平市子ども・若者計画」に基づいて、子ども・若者施策を推進してきたが、こども基本法が策定され、こども施策全体を一体的に、市民に一層わかりやすいものとするため、小平市子ども・若者計画を前倒しで見直し、（仮称）小平市子ども計画を策定する。資料4の2計画の位置づけだが、こども基本法を策定根拠とし、市のこども施策を推進する総合的な計画として、子ども・若者育成支援推進法に規定する市町村子ども・若者計画、子供の貧困の解消に向けた対策の推進に関する法律に規定する市町村計画を包含する。資料5は国や東京都の計画との位置づけの図である。また、計画の策定にあたっては、小平市第四次長期総合計画や、関連する個別計画等と整合</p>
-----	---

	<p>性を図る。</p> <p>資料8は東京都の子供政策・少子化対策の推進体制を示した資料である。こども基本法第10条では、市町村は、国の3つの大綱と都道府県こども計画を勘案して市町村こども計画を作成するよう努力義務として課しているが、東京都の取組状況は、資料のとおり、「こども未来アクション」「東京都の少子化対策」を基軸として「東京都子供・子育て支援総合計画」、「東京都子供・若者計画」とともに、「こども大綱の政策目的と軸を一にして子供施策・少子化対策を推進していく」としている。</p> <p>資料4の3計画の対象期間は、令和8年度から令和16年度までの9年間としている。現計画の対象期間10年を踏襲しつつ、子ども・子育て支援事業計画の策定期間に一体とできるよう9年とするものである。4計画の策定体制であるが、さまざまな立場から意見聴取する。(1)本協議会では、学識経験者や公募市民へ計画策定の各段階において、意見を聴取する。(2)市民、こどもからも広く意見を収集するよう努める。具体的には令和6年度にはこども・若者の意識・実態調査や、ワークショップ等の意見聴取の機会を活用するなどの取組を行った。また、計画の素案の段階において、市民意見公募手続きを行う。</p> <p>(3)庁内連携体制だが、2つの会議体での体制を組む。①庁内検討委員会では、庁内関係課長で構成する小平市子ども・若者計画庁内検討委員会を改め、(仮称)小平市こども計画庁内検討委員会に変更し、計画案を調整する。②では、(仮称)小平市こども計画庁内検討委員会に部会を置き、関連課職員で編成する。令和6年度中に実施するこども・若者に関する実態調査の内容検討や、こども等からの意見聴取等についての検討を行った。今年度には、計画案等について意見を求める予定である。5計画の策定上の留意事項だが、(1)市議会へは、計画策定の進捗状況について、必要に応じて適宜、報告する。(2)情報の公開については、小平市青少年問題協議会を公開とし、会議録及び会議資料等については、終了後速やかに市ホームページ等により公表する。6計画策定スケジュールの概要は、令和6年度には青少年問題協議会、庁内検討委員会、それぞれ4回、部会を3回開催し、こども・若者の意識・実態調査の報告を3月に行った。令和7年度には青少年問題協議会、庁内検討委員会、部会をそれぞれ5回ずつ開催し、9月にこども・若者等からの意見聴取、11月にパブリックコメントを実施し、計画に反映したうえで、3月までに策定する。</p> <p>令和7年3月に実施したこども・若者の意識・実態調査は資料9が報告書、資料10が報告書の概要版である。資料10、1ページの調査の概要は、調査対象としては、市立小学校5年生、中学校2年生全員、16歳以上29歳以下の無作為抽出した市民3,000人に対して令和6年11月26日から12月16日にかけて実施した。回収率、主な調査内容は資料のとおりである。</p> <p>調査結果は、自分のことについて、1ページから3ページにかけて5つの質問に対して、3ページ目の「今の生活に満足している」についてはこども大綱に記載の国の調査による現状値60.8%と比較して、小平市の今の生活に満足しているこどもの割合が全年代で高くなっているが、他の4項目はこども大綱の国の調査による現状値とほぼ同じか、低くなっている。他には、3ページの自由な時間の過ごし方や、4ページの嫌な経験について、5ページの学校生活の満足度、などの設問がある。</p>
会長	こども、子ども・若者の表記の違いがあるようだが、そのあたりの説明をいただきたい。
事務局	こどもという表記に関しては、こども基本法では18歳、20歳という年齢で支援が途切れることが無いように、成長過程のあるもので、おおむね30歳となっているが、わかりやすいようにこども、若者と表記している。小平市子ども・若者計画の取組によっては39歳までのものもある。

4 情報交換・意見交換

<p>会長</p>	<p>私は大学で学生を相手に仕事をしている。学生の教員採用面接の勉強の中で、東京都の教育関係の資料を読むと、やさしい言葉版、こども版などを作成していて、当事者のこどもが理解できるようにしており、とてもいいと思っている。昨年度、小平市でもこども・若者の意識・実態調査を行ったが、こどもたち自身が思ったことが施策に活かしているという実感があるといい。また、小平市には特別活動の日ができて、主体的に物事を考える時間が設定されており、素晴らしいと考えている。その中で学生に特別活動に関することを聞いても、小学生の時に学級会をやっていたかどうか記憶にない人もいる。学校の中で場合によっては意識にのぼらないような教育活動になってしまっているような現状もある中で、特別活動が小平市の中で進められており、こども自身が小平の取組を考えることに参画しようとするこどもたちを育てていくのではと期待している。</p>
<p>委員</p>	<p>小平児童相談所は北多摩地域の9市・小平市、小金井市、東村山市、国分寺市、西東京市、東大和市、清瀬市、東久留米市、武蔵村山市を管轄しており、約115万人の人口で、児童相談所の管轄基準となる50万人以下をはるかにオーバーしている現状である。児童相談所は、児童虐待に奔走しているというイメージが強いと思うが、件数のうち、おおむね6割が虐待で、そろそろ数的には頭打ちになるのではと考えている。こどもの数が減っていることや、こどもの虐待は事後対応では遅いので、未然予防、支援が必要という方向に進んでおり、国は母子保健、児童福祉の一体的支援を目指す「こども家庭センター」の設置を進めている。その効果がさらに増えてくると、虐待の件数が減ってくるのでは。また件数のカウントの仕方が変更になり、疑いで通報があっても調査の結果虐待には当たらない、非該当が7～8%ある。小平は2000件のうち70件くらいが数に入らなくなる。結果として不本意ではあるが、制度が変わったのでこれからは数が減ってくる。これは何か功を奏して減ってきているわけではなく、児童相談所が楽になっているわけではない。令和5年度・6年度では件数は横ばいであり、これからは減っていくと思われる。ほかに深刻化しているのが、若い人の自殺、自傷行為で非常に増えている。「死ぬ」と言葉に出す人は亡くならないと言われることもあったが、現在は実際に亡くなっている。保健や医療の分野と連携していかないといけないと考えている。</p> <p>小平児童相談所のケースワーカーは40人で、定数基準では58名必要とされており、大幅に足りない。日々叱咤激励し、ベストではない状況でベストを尽くそうとは話している、物理的に求められる機能をすべて対応するのは不可能なので、トライアージをやっていかなざるを得ない。ただ、こどもの命、安全を守るのは死守しないといけないが、それだけでいいとはならないよう日々話している。すべてのニーズにこたえきれないのが実情なので、関係機関のご協力をいただきながら、できる限りベストを尽くしていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>今若者に多いのは、SNSで簡単に犯罪に巻き込まれてしまい、闇バイトやいじめに加担して加害者になるケースや、被害者となるケースが多発しており、だれでも簡単に犯罪に遭遇するようになってしまっている。ほかには市内では特殊詐欺が激増しており、R7年3月末で昨年同月比9件から22件と倍増しており、被害額も800万円から7,800万円となっている。最近多いのは自動ガイダンスの電話で、その後オペレーターから総務省、警察などそれぞれの役割の人が出てきて、振込詐欺に導かれている。また、実際に小平市の高校生が受け子をやっていた事実がある。被害にあわないことはもちろん、特殊詐欺をやらせない対策が必要になる。SNS、インターネットで安易に犯罪に巻き込まれていく、悪い大人と簡単につながるの、正しい身近の大人と気軽に相談できると良いのではと考えている。</p>

委員	<p>学校は各校で「経営計画」を作ることになっている。年度当初に計画を示してスタートを切るのが本筋だが、人事異動などがあり、ようやく今日示したところである。そういいながらも学校はすでに教育活動がスタートしており、はやく追いついてやっていかないといけないと思っているところである。本校は生徒が比較的穏やかで落ち着いている校風で、これからも引き継いでいきたい。</p> <p>数年前に成人年齢が引き下げられ、在学中から成人年齢に達する生徒がいるということがあるので、主権者教育を含めて社会参画をしていくということを、在学中に伝えて経験してもらわないといけないと考えている。</p> <p>本校では近々健脚大会という行事があり、生徒が5つのスタート地点から学校まで歩いていくというものである。一番遠くて50キロの距離があり、一日がかりで歩いてくる場合もある。交通事情などさまざまな厳しい条件がある中で、創立以来ずっと続いており、このようなイベントはなかなかできないので、見かけたらぜひ声をかけていただければと思っている。</p>
委員	<p>児童養護施設で、小平児童相談所をはじめ都内全域からこどもを預かり、養育している。小平市、東村山市・国分寺市とはショートステイも受託している。毎日こどもたちと生活しながら「本当はこどもは困っている。どう表現していいかわからないから、色々な行動を起こしている。特に声を上げにくいこどもである。」ということを読み取る必要があると感じている。こどもたちの生の声をどう聴いて、どうこたえていくのが大事で、微力ながら努力していきたい。</p>
委員	<p>保護司は裁判所から保護処分となった人たちを後押ししているが、今共通していると感じているのは、自分の意見を言えない立場にいるこどもが多い。小・中学校などでつまづくたびに自分の意見が言えなくなり、友達が離れていき、孤立したときに「お金が欲しい」がきっかけで犯罪に走ってしまっている。特殊詐欺の受け子をした人も何人かいたが、寂しくなつてつい闇バイトに電話してしまい、話に乗ってしまったという。そのほかに性犯罪が多い。内気でコミュニケーションができない人が多いというのを現状として感じている。気持ちを話すことができないこどもたちに声をかけて、話せるようにしていかないといけないと思っている。</p>
委員	<p>青少年委員は各小学校区から選出されている。青少年委員会の中で青少年リーダー養成講座というものがあり、月に何回かの講座を持ちながら、地域で活躍できるような青少年の育成をするために活動している。こどもたちのかかわりの中で本協議会で学んだことを活かしていきたいと思っている。</p>
委員	<p>小平市で育ち、住みやすい街だと感じている。高校まで市内の学校に通っており、とても恵まれた環境で、楽しく学校生活を送ってきた。先ほど特殊詐欺の話があったが、今年1月に闇バイトのメールが自分に届いてとても驚き、母と「とうとう自分に届いたよ」と話をしていた。犯罪に加担すると一生をだめにしてしまうとても大変なことなので、何か対策をしたほうがいいと感じた。</p>
委員	<p>ファミリーサポートセンターに登録している有償ボランティアは、1時間当たり800円から1000円と、今の最低賃金を下回る報酬で、力になりたいという思いで活動してくれている。利用する方は保育園の送迎や、リフレッシュであったり、子育てに行き詰まり、1時間でもいいからこどもから離れる時間が欲しいという方もいる。先ほど虐待の話があったが、この家庭は危ないなという話も聞いており、市職員や児童相談所がなかなか家庭の中に入ることができない中で、地域のボランティアの方が優しい気持ちで家庭に入り日々の生活を支えることで、こどもも家庭も救われているという状況を感じている。報酬が少ないので心ぐるしく感じることもある。</p>
委員	<p>自身は定義上こども・若者に入るので、日々感じていることを共有させてほしい。1つ目が、研究活動の中でSNSやタブレットを手放せずについ使ってしまう、色々な情報に触れているが頭に残っていない。デジタル健忘症的なことを日々実感</p>

	<p>している。文字を書く必要があるときに漢字が思い出せず、大学院生の自分がこういう状況であるのに、小中学校など、もっと若くてスマートフォンを持っている人はどうなんだろうと感じている。2つ目が自治体との付き合い方についてで、今回青少年問題協議会の公募委員募集を大学の掲示板で知った。小平市に住んでいながら所属する大学で知ることが珍妙に感じて、自分からアプローチをしていなかったこともあるかもしれないが、住んでいる基礎自治体との関係性、住民と自治体とが触れ合う何かがあるといいと日々感じている。</p>
委員	<p>今活動をしていることは特にないが、若いお母さんが何人も子どもを乗せて自転車で走る姿を見ると、応援したい気持ちと、一方で社会の色々なニュースを聞き、この子どもたちが将来に向けてのびのび暮らしていけるのかと思う時がある。以前高校に関わったことがあるが、いじめや不登校など、小・中学校に十分に通えなかった子もいた。サポート校の数が増えており、これまであった中学・高校の中でのびのびと生活していけるようになればいいと思う。</p> <p>ほかには4月に教員が足りない事態がありそうで、教員のなり手が少なく、定員を満たせるだけの応募者がいるかないという問題を気にしている。ゆとりのない学校と家庭というのが頭によぎってしまう。どこに問題があるかを考えていきたい。</p>
委員	<p>こどもが5人おり、育て上げてきたが、親としては年子などがいて子育てが大変で、怒鳴って育て上げた記憶がある。こどもとの接し方で、どのような対応がいいのかを体験を踏まえて考えていきたい。</p>
委員	<p>約10年前に教員を辞めたが、そのころからずっと問題だと思っていることの一つで、どういう人を発達障がいとするか、その子たちをどうやって育てていくかということに取り組んでいかないといけないということを意識として持っている。もう1つがテレビでよく取り上げられているのが、若い人が自分の感情を表現できないということである。感情がないから「うざ」など短い単語でその場を過ごしてしまい、自分の感情がわからないので相手の感情もわからないという状況である。こどもが小さい時から、おとなが今の気持ちはどういう気持ちかと言語化してあげるのが必要だと感じている。</p>
委員	<p>青少対活動を通じて小学生を軸に学校と地域の交流活動を進めている。具体的には地域の大人による小学生向けの昔遊びや餅つきなどの活動を中心としている。そのような活動の中から学校経営協議会委員の活動につながっている。会社員時代から社会貢献活動としてラジオ製作教室を日本全国で年間10回開催する活動をしている。</p>
会長	<p>さまざまな立場や経験を持っている方が本協議会に参画している。それぞれの立場で今後もお発言をお願いしたい。</p>